

高松市が夏休みの短縮を検討

教育長は、現場の声をどの程度聞いたのか？

夏休みの短縮は子どもたちのためになるのか

12月10日、高松市教育長は自民党の市会議員の代表質問に対して「来年度からすべての小中学校におきまして、夏季休業日を一週間程度短縮し、二学期の開始を早める方向でその準備を進めて参りたいと存じます」と回答しました。

香教組は高松支部が、12月の交渉でこの問題について要求項目にあげて話し合いましたが、回答は「夏休みの在り方については土曜学習研究指定校事業の成果と課題を踏まえ、検討中である」との回答であっただけに、拙速な教育長の答弁はどうかと思われまます。

12月10日の高松市議会で、自民党の三笠議員・森川議員などから次のような内容での質問がありました。

森川議員の代表質問から
本市では「土曜学習研究指定校事業」を3校で実施し、生徒の学習意欲を育て、家庭学習の習慣化など基本的な学習習慣の確立と学力の定着をはかるなど、それらの課題の解決に取り組んでいると認識しておりますが、果たして十分な効果が得られているのでしょうか。

現行の学習指導要領は、以前の学習指導要領よりも指導内容が増加しているため、通常の日の授業時間を増やしたり、学校行事の精選を行う等、各小中学校では工夫をし、授業や子どもたちと向き合う時間の確保に苦慮していると聞いております。

このような状況の中で、学力の二極化に対応し、学習内容の定着を図るために、ゆとりをもって学習できる取り組みとして夏休みを短縮して授業時間を確保し、学力向上

から次のような内容での質問がありました。

本市も、学校生活の充実を図るためには、土曜日の活用が有効か、夏休みの活用が有効なのかを判断する時期に来ていると考えます。適切且つ時機を逸することなく判断することが重要であります。

本年度で、市内小中学校への空調設備の整備が終了するに当たり、夏休みを有効に活用して、学力の向上を更に推進するとともに、学校生活の中で、教師が子どもたちとゆとりを持って向き合えるようにすべきだと考えます。

そこで、お尋ねしますが、現在実施している「土曜学習研究指定校事業」の検証結果をお聞かせいただくとともに来年度以降の夏休みの在り方について、どのように考えておられるのか、教育長の考えをお聞かせください。

松井 等教育長の答弁（三笠議員の代表質問への回答）

教育問題のうち、土曜授業へのシフトまたは夏休みの短縮についての考えであります。

「土曜学習研究指定校事業」につきましては、全国学力学習状況調査などの結果から、学力の二極化の傾向が見られますことから、学ぶ意欲を高め、家庭学習の習慣化など、基本的な学習習慣を確立し、学力の定着を図るため、昨年度と本年度の二年間、中学校3校においてモデル的に実施して参ったところでございます。

実施校における生徒や保護者、教員に対するアンケート調査や聞き取り調査により、まず、生徒からは「学力向上に役立つ」「保護者からは「土曜日の過ごし方が良くなっている」「教員からは「学習の習慣づけや動機付けになっている」など肯定的な回答が多いことから、本事業を通して一定の成果が上がったものと認識いたしております。

一方、土曜学習が希望者による参加でありましたことから、学力を一掃定着させたい生徒の参加が充分ではなく、当初の目的としておりました学力の二極化の解消には至っていないことや、実施に際して部活動との時間的な重なりや指導する教員の負担が大きいため、このことが課題として上

がっているところでございます。

土曜学習の成果を検証する中で、学校や保護者からは、補充学習は希望者ではなく全員を対象として実施してほしいという意見、小学校では、地域行事やスポーツ少年団との関係から土曜学習の拡大は難しいこと、また、中学校では、先ほど申し上げましたように、教員の業務が多忙化すること等々の課題から、夏季休業日の活用を検討してほしいとの意見も頂いております。

また、夏休みは暑さのため学習ができていない状況でありましたが、本年度で全ての小・中学校に空調設備が整備されることにより、来年度以降は夏場の学習環境も改善されるものと存じております。

このようなことから、教育委員会と致しましては、土曜学習のねらいである学力の二極化を解消するため、土曜授業へのシフトではなく、来年度から全ての小・中学校におきまして、夏季休業日を一週間程度短縮し、二学期の開始を早める方向でその準備を進めて参

りたいと存じます。



高松市は、モデル校事業として中学校3校で土曜授業を実施したが、その出席率は25%しかなかった▼保護者から「土曜日の過ごし方が良くなっている」という回答が多数あったというが、1/4しか来ていないのこの声は本当に多数の親の声と言えるのだろうか▼学力の二極化を解消するというが、夏休みを短縮した僅か20時間程度の確保で二極化が解消するというのか▼土曜授業では、教員への負担が大きいと言うが、夏休みでも年休はおるか特休も消化しかねているのに、夏休み短縮は、より教員の負担になるのではな

香教組としての見解

からといって子どもは、本当に授業に集中できるのか▼学力の二極化は、経済格差が学力格差を生んでいると指摘されている。単純に「授業時間を増やせば学力の二極化が解消される」などとは言えない▼「土曜授業」や「夏休みの短縮」で学校に子どもたちを来させることが、松井教育長の言う「学ぶ意欲を高め、家庭学習の習慣化など、基本的な学習習慣を確立」することには直接つながらない▼学力の二極化を解消するためには、学力が低位なままに置かれ、学習意欲を失わされている子どもたちを勇気づけ、学習への自信を回復させる指導の工夫しかない▼先生方がそういう指導の工夫ができる余裕を持てる条件整備こそが大事なのではないか。